



# 宮永岳彦記念美術館だより

2023 12月

発行/ 秦野市立 宮永岳彦記念美術館 〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2  
TEL / FAX 0463-78-9100

## 常設展示室

## 市民ギャラリーのご案内

入場無料

### 蘭の会 蘭の会 作品展

12月1日(金)～12月3日(日)  
10:00～17:00 (最終日 16:00 まで)

書・クレイの花・陶器の絵付けなどの展示をします。  
お楽しみ頂ければ幸いです。

## 優美な世界

2023 10/14 (土) ～ 2024 5/12 (日)

展示作品より今月の一点

《 舞踏会への誘い 》



## 1月の市民ギャラリー展覧会の予定

フォトやまゆり(写真展)

1月23日(火)～1月28日(日)

※ 12月1日(金)から2024年6月分までの予約を受け付けています。

## 市民ギャラリー予約方法が変わります

2024年7月分から、市民ギャラリーの予約をインターネットでできるようになります。また、予約には事前に利用者登録が必要です。2023年12月20日より翌年7月分の抽選予約が受付開始となりますので、利用者登録がお済でない方は手続きをお願いします。詳しくはHPをご覧ください。

## 美術館内の撮影ができるようになりました

美術館内の写真撮影が一部(ぺんてるコーナー、小田急コーナー)を除き可能になりました。

SNSやブログなどの掲載はできますが、商用利用はご遠慮ください。

優雅なドレスを着た三人の女性が屋外でくつろいでいるこの作品は、民族衣装シリーズから鹿鳴館シリーズへと発展していく過渡期の一枚になります。三島由紀夫原作の舞台『鹿鳴館』にインスピレーションを感じた宮永は、豪華絢爛なドレスをまとった女性を多く描き、それは鹿鳴館シリーズと称されました。

一見すると粗く見える筆づかいで描かれたドレスですが、少し離れてみると襟元のレース部分は繊細な模様に見えます。その特徴は美人画の制作を追うごとに際立つものになっていきます。

足元の花をそっと見つめる女性の表情や光が当たった様に明るい肌の質感など、後の宮永が描く美人画を彷彿させます。

また、この絵は、宮永がはじめて100号以上の大作に取り組んだ記念すべき作品でもあり、「粗めのキャンバスを使ったので、散々こずって苦労した」と、後に回想しています。

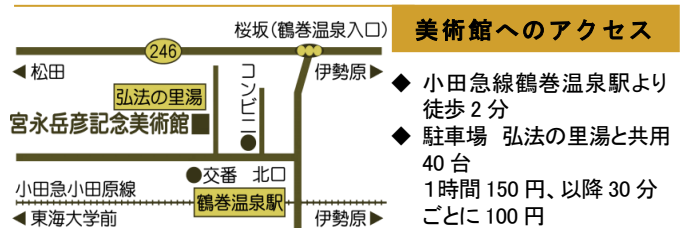
本展では宮永の画道の軌跡をたどる油彩画を多く展示しています。あくなき探求心で自分の理想とする女性像を追求し続けた宮永の世界観をお楽しみください。

1973年 油彩 140変

観覧料 ・一般 300円 (弘法の里湯利用者は100円割引)

・高校生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料

開館時間 ・午前10時から午後7時 (入館時間は午後6時30まで)



《隣接》 公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL0463-69-2641

12月の休館日：4日(月) 11日(月) 18日(月) 25日(月) 28日(木)～31日(日)  
年始の休館日：1月1日(月) 2日(火)

※ 1月3日(水)、4日(木)は午後5時閉館(入館は午後4時30まで)